

耕作放棄地を開拓し、外遊びの環境を整えプレーパークを実施した

勝央町はしたやま冒険遊び場づくりの会

活動の目的

過疎化の進んだ勝央町間山（はしたやま）の耕作放棄地を利用して子供が豊かな自然の中で親や社会の禁止事項の多いルールから解放され、五感による直接体験を通し主体的に遊びながら学ぶことができる場を作る。また、定期的に開催することにより、親と子が遊び場や地域に慣れ、地域住民にも遊び場として認知してもらい地域住民とこの地に集う人との交流が進むことを目的とする。

活動の内容及び経過

2020年度4月、5月はコロナの為活動自粛し、スタッフによる耕作放棄地の環境整備にあてた（計12回）。6月、7月、8月、9月、10月、11月の毎週土曜日を開催日とし（雨天中止あり）、計14回（11/21現在）冒険遊び場を開催した。

また、毎月一度遊びのテーマを決めてチラシを作り、勝央町親子広場や公民館に配布して告知をおこなった。

○スタッフ整備

4月、コキアの土作りのため笹の根の除去を行った。林業経験者の力も借りて森林整備を行い、道具置き場の開拓をした。子ども用の作業台兼椅子の作成。

5月、道具置き場の雨除け作りやトマトの苗植え、筍掘り体験の模擬イベント実施。草刈りなどの環境整備。

○通常開催

6月20日（土）から通常開催が始まった。ロープ、ハンモック、チョーク、ままごと道具、森林探索、虫取り、などその時集まった子供たちの気分で遊びが展開していく。コロナ自粛で3月からの人の流れが切れ、夏の暑い時期は参加者0組の日もあったが、毎月イベント告知をし、季節が移り涼しくなるにつれて、2組3組とイベント日以外にも来てくれるようになった。

○実施イベントスケジュールと参加者数

- 6月27日（土）おままごと用の小屋作り 参加者15名
- 7月18日（土）おままごと用の小屋ペンキ塗り 参加者13名
- 8月29日（土）薪割り 参加者8名
- 9月26日（土）栗拾い 参加者22名
- 10月10日（土）栗拾い 参加者24名
- 11月28日（土）焚き火 参加者9名

のべ、イベント参加者91名

活動の成果・効果

コロナ自粛の間も、スタッフ家族が定期的に耕作放棄地に通うことにより、近隣住民に「ここでなにかしているようだ。」と地域の集会で話題に出してもらえた。真夏では「元気だね、よくやるね」と通りがけに声をかけてもらえたり、差し入れに



池に行く様子



木登りする様子



日常の様子



どんぐりゴマ作成

ジュースやお菓子をいただいた。また、おせっかいかもしれないけれどと言いながら、遊び場周辺で出る虫や、蛇、動物のことを教えて頂いた。参加者が多い時には「がんばったからね、よかったね」と言ってもらい見守って下さる地域の温かさを感じ、受け入れてもらえていると感じた。

子どもの「やってみたい」を沢山見ることができた。遊び導入の仕掛けとして、木にカーテン生地を巻きつけ、秘密基地を作って見せた所、天井を作る！と小枝と落ち葉を集めてきて天井作りが子ども主体で始まった。その後、別の木でも秘密基地作りが始まり遊びの展開が見られた。

参加者からは「ゆったりと子供たちが過ごせていて、親子ともに自然体で経験し合えた」「子どもの問題行動を第三者に注意してもらって子供にとって良い経験になりました。」などの感想が聞かれた。

今後の課題と問題点

会を立ち上げてまだ1年と日が短いので、スタッフが遊び場の一年を通しての自然環境を知らない。それにより、トマトは赤く熟れる前に動物に食い荒らされたり、夏場の草刈りに時間を要したり、栗の熟れる時期を見誤った。

遊び場スタッフの経験の浅さが課題、親の見守る姿勢をどう共有していくか。遊び場に子供を放置する親に、子供のやりたいことを応援し、口出しせず、先回りせず、見守る姿勢をどう伝えて共有していくか、課題が残った。

- 代表者：中村清香 ●所在地：勝田郡勝央町岡
- 設立年：2019年 ●メンバー数：4名